

Barker College 訪問

明星中学校 第2学年主任 菅野 友博

1 はじめに

2019年9月9日、私立学校教員海外派遣団は、6件目の視察先である Baker College を訪問した。当校はオーストラリア最大の都市シドニーから北西に約30キロに位置するホーンズビー市の住宅地域内にあった。我々はシドニーからマイクロバスで約1時間の移動であったが、電車でも40～50分とのことだ。同市は、ニューサウスウェールズ州の都市政策の一環で、駅周辺に高層ビルが立ち並び、中心街にはショッピング・モールが建設されるなど活気があり、人口が年々増加している。一方で、市の総面積510㎏の4分の3は、クリンガイ国立公園をはじめとするブッシュランド（山林）に覆われており、豊かな自然が残されている。

今回の海外研修中に視察した唯一の私立学校であり、我々私立学校教員にとって、今後の私立教育の在り方に参考となる教育概要や取り組みが多くあったのでここに記す。

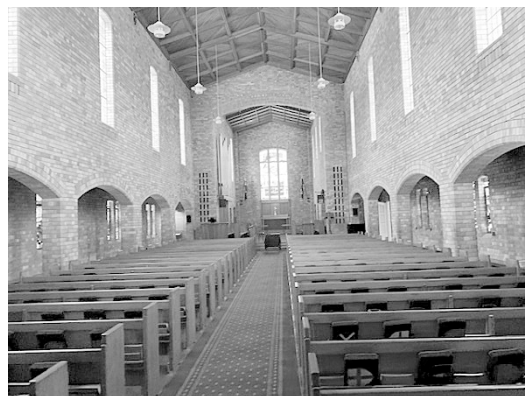


Barker College 正門

2 学校概要

Baker College は、1895年、サウスウェールズ州に男子校として創立された伝統校で、全生徒2013名、男子1747名、女子356名。Junior School (Pre-K、year1-6)、Middle School (year7-9)、Senior School (year10-12) の一貫教育を行っている。

キリスト教における道徳のもと、生徒一人一人に対し、これからの社会（世界）を支え、包容力を備えた人物になれるよう人格形成のサポートに力を注いでいる。大学入学統一試験（HSC）で常に上位に入るとともに、ラグビー、クリケット、サッカーなどスポーツも盛んな学園としても有名である。現在移行中であるが、2022年に完全共学化し、全生徒2900名となる見通しで、東海大学菅生高等学校・中等部の姉妹校でもある。



校内にあるチャペル

3 教育環境

教員数約 300 名で、そのほとんどが専任教諭であり、生徒一人ひとりにきめ細やかな指導を心掛けている。

ICT 教育では学校専属の IT 部門を設置し、IT ヘルプデスクには常勤スタッフが配備され、生徒はいつでもサポートを受けることができる。全教室にタッチボード、スクリーンを完備している。年間約 300 ドルを徴収し、初等部では各生徒に iPad、中等部になると Windows Surface が配付され、授業や課題等で活用している。なお、教科書のほとんどが ebook であり、学校全体でペーパーレス化を推進している。

スポーツにも力を入れており、400mトラックがあるグラウンドが 3 つある。現在、2020 年 4 月完成を目指して、体育館および 12 教室が入る複合施設を建設中である。



広大なグラウンド



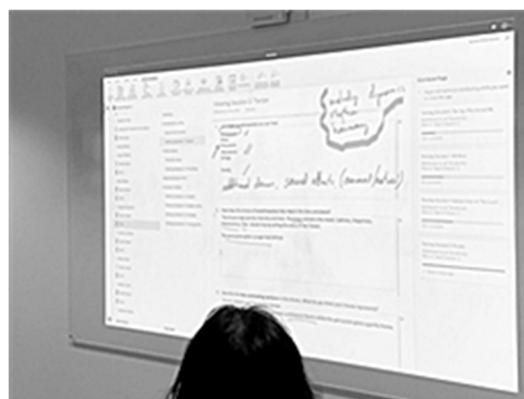
建設中の体育館と教室

4 ICT 教育環境、柔軟に形を変える学習スペース、特化したロボット工学

(1) One Note の活用

当校では、ICT 教材の導入を積極的に進めており、前述の通り 7 年生から全生徒が Windows Surface を持つことでさらに ICT 教育が加速する。今回の視察で、特にマイクロソフトの One Note の活用が印象に残った。教員の授業での使用はもちろんのこと、課題配布や提出、そして生徒の自己評価や目標設定にも活用されていた。

One Note の基本的な機能は、ノートのように何でも自由に書き込むことができるということと、その情報が自動で保存されることである。教室で使用すれば、授業記録となる。電子黒板に生徒との共有ページを投影し、そこに書き込みを入れる。生徒は家で授業の復習が容易にできるだけでなく、教員も前回の書き込みが残った状態から授業を再開することができる。また、授業外でも、教員が共有ページに課題を掲載し、生徒がそれに回答することで、課題配布と回収がスムーズになる。教員から



One Note 活用事例

の迅速なフィードバックは、生徒の自発的な目標設定につながっているという。なお、成績評価は **Extensive**、**Thorough**、**Sound**、**Basic**、**Elementary** に分かれ、合格ではなく、成績が伸びたことや、その過程が大きく評価される。そのため、生徒は課題に真剣に取り組む、それを引き出すための教員のフィードバックが重要となる。その意味でも、**One Note** は欠かせないツールとなっている。

(2) 学習者の規模に応じて柔軟に形を変える学習スペース

集団で講義形式の授業を受ける時は、ホワイトボードを正面にして机が並ぶ、日本でもお馴染みの教室である。特筆すべきはどの教室も、廊下側のドアと壁を開放できるようになっていることである。全教室をそうするとフロア全体が一つの空間になるまた、廊下中央には、小グループで課題解決に取り組むのに適したガラス張りの部屋や、個人で課題解決に取り組むスペースがある。学習するグループの規模に応じて、柔軟に学習スペースのレイアウトを変更することができる校舎設計は参考になった。



個別学習スペース

(3) ロボット工学プログラム

Baker College のロボット工学プログラムは、世界中で多くの注目を集めている。それは、単に技術的、ビジネス的側面からの指導に留まらず、コミュニケーション、チームワーク、リーダーシップ、イニシアチブといった能力開発の一貫としてのロボット工学プログラムが確立されているからである。全生徒が、コンピューターの授業でロボット工学に触れている。さらに、5年生から参加できる課外活動でもこれに取り組む生徒が多い。当校では、専用のロボット工学センターを設置し、2人のエンジニアが指導に当たっている。ロボットの設計はもちろんのこと、エンジニアリングプロセスを一通り体験することができる。



廊下側が全開放できる教室



ロボット工学センター

5 おわりに

これまでの教員人生で、目の前の生徒たちと、真剣に向き合ってきたとの自負がある。しかし、今回の視察で、まだまだ自分の足りなさを痛感した。今まで自分が受け

てきた教育や、自分に近いコミュニティーでやり取りした情報を基にした教育に終始していたことに気づきがあった。来年で教職人生 20 年を迎えるが、海外の教育に目を向けるという視点が加わったことは、私にとっての大きな転機となった。

今回の視察を企画してくださった東京都私学財団、充実した視察計画を立ててくださった旅行社、視察を後押ししてくださった管理職、視察中に授業や校務を肩代わりしてくれた同僚に感謝している。もちろん、タイトな 8 日間の視察を、一緒に過ごした研修団の皆様には、末永いお付き合いを希望している。

参考：バーカーカレッジホームページ <https://www.barker.college/>